

おわりに

林業経済学会50周年記念事業特別委員会

委員長 笠原 義人

林業経済学会の前身である林業経済研究会が28名の会員により、東京・森林資源総合対策協議会（林総協）会議室で設立総会を開催したのは50年前の1955年5月7日である。その後、1960年には101名（東京在住62名、地方在住39）、1964年には359名（東京在住126名、地方在住233）へと急速に拡大した。1978年4月には林業経済研究会を林業経済学会へと組織改革を行い、それまでの『林業経済研究会会報』を学会誌『林業経済研究』に名称を改め、今日に至っている。

このたび、学会では50周年記念事業に取り組むため2001年4月に特別委員会を設置し、主たる事業として50年の研究成果と業績を集積し、成果選集として出版することを決定した。それを受け2002～2004年は、成果選集の各章別分担者に、年代別および分野別の作業経過を踏まえて春・秋の林業経済学会時に特別報告（「50周年事業特別セッション」）をいただいた。そして、2004年、2005年（2006年5月末日を最終締切）を原稿執筆期間とし、第1回特別委員会開催後5年の歳月をかけて2006年11月によりやく完成の運びとなった。この成果選集の原稿執筆には、正会員の2割、総勢60名の会員が参画しており、文字通り林業経済学会挙げての記念事業となった。

成果選集を『林業経済研究の論点-50年の歩みから-』とし、第一部は年代別レビュー、第二部は分野別レビュー・文献リスト・選著解題、そして第三部は解題文献集（CD-ROM）という三部構成となっている。第二部の分野別文献リストでは、分野によっては文献総数が300にも達するところもあり、やむを得ず200編前後の主要文献に絞り込んでいただいた。三部のCD-ROM版では、各分野から厳選された主要文献、すなわち解題に取り上げられた文献を読者が手許でプリントアウトして読むことができるよう配慮されている。若手会員、学生会員がこの成果選集を活用して研究の発展に役立てていただけること、そして新たに参入する林業経済研究者に本書を普及していただけることを、大いに期待したい。

川村秀三郎林野庁長官からは記念出版への推薦の言葉をいただき、心よりお礼

を申し上げたい。林業経済研究会発足以来、林野庁の会員も幹事会への参画をはじめ積極的な参加を当然としてきたが、1998年の学会運営の抜本的改革（評議員・理事・主事制度）後は、林野庁関係会員の学会運営への参画が見られなくなっている。また、全国森林組合連合会をはじめとする林業関連団体会員の参画も少ないのが現実であり、学会運営上の工夫が必要となっていると思われる。

この出版事業はすべてを会員のご支援に頼らざるを得なかったが、結果、100名を超える会員の方々からご理解（寄付総額200万円余）をいただき、財政的に大きな支障もなく刊行に至った。

50年前に30歳代で林業経済研究会を立ち上げていただいた同学の先輩達は、今では80歳代を迎えておられる。記念祝賀会へのご招待を呼びかけたが、残念ながら多くの方々からは遠慮させて欲しいとの回答が寄せられている。本書で書かれている50年の歩みの総括を、70歳、80歳の先輩達がどのよう読まれたか等のご教示をいただければ幸甚である。

林業経済学会50周年記念事業特別委員会は2001年から2006年の5年の間、15回の特別委員会を重ねてきた。原稿執筆の協力や、寄付による財政的支援が得られるのか等々、不安が無いわけではなかったが、完成を間近に特別委員一同は、ようやく安堵しつつある。とりわけ特別委員会の原研二委員には原稿の受付、編集、出版交渉を、山本伸幸委員にはCD-ROM版編集を、山本美穂委員には50周年記念事業特別委員会主事として庶務を担当いただき、労を多としたい。

最後に、厳しい学会の財政状況と、記念事業祝賀会（2006年11月3日）には出版物を必ず間に合わせなければならないという学会側の無理な要請にもかかわらず出版をお引き受けいただいた、日本林業調査会の辻潔社長に深謝申し上げたい。

林業経済学会50周年記念事業特別委員会委員

委員長 笠原 義人（宇都宮大学名誉教授）

委員 福島 康記（林業経済研究所） 宮林 茂幸（東京農業大学）

土屋 俊幸（東京農工大学） 大田伊久雄（愛媛大学）

山本 伸幸（森林総合研究所） 山本 美穂（宇都宮大学）

原 研二（大日本山林会）